



Conseil Mondial de la Famille Marianiste

Via Latina 22, 00179 Roma, Italia – www.marianist.org
Tel (+39) 06 70 47 58 92 – FAX (+39) 06 7000 406

World Council of the Marianist Family
Consejo Mundial de la Familia Marianista

マリアニスト家族世界評議会

第31回世界マリアニスト祈りの日
スイス: フランス以外で最初にマリアニストの宣教活動が行われた国

「罪の汚れのないおとめマリアによって
父と子と聖霊が至ところでたたえられますように」*

1. 前兆

スイスのマリアニスト家族との繋がりは、その誕生以前からすでに進んでいました。事実、ギョーム・シャミナード少年の母方の祖父母は、フランスに戻る前に、レマン湖の河岸の町モルジュに住んでいました。このユグノー教徒の夫婦は、1685年にルイ14世がナントの勅令を廃止した時、そこに移住していたのです。(Vincent Vasey 著: “シャミナード、新たな肖像” p. 20.)

数名の初期のマリアニストはスイス出身であるか、スイスとの繋がりを持っていました。総長として福者シミナード師の後を継いだジョルジュ・カイエ師と彼の姉妹は、共にマリアニスト修道者となりました。彼らは(現在のジュラカントンにある)アルの出身でした。ルイ・ロテア師はバーゼル近くのマリアシュタインで最初の勉強を行いました。彼はフリブールのウルスラ会の聖堂にて叙階されました。創立者の存命中、他の3名のスイス人がマリア会に入会しました。



ブルギヨンの聖母

2. 最初の修道者たちのフリブール到着

マリア会が創立されて7年後の1824年に、既にシャミナード師はスイスに修道者を派遣する望みを表明していました:



フリブールの最初のマリア会員の学校
(1839年)

「…私たちがすでに作られあるいは、運営されている本会の施設を完備し、あるいは若干の他の優秀な人員を集めるまでは、どんなに私たちが望んでいるにしても、スイスのためには目下本会のいかなる施設の設立も話し合いえないことを氏におわせて結構です。また、私は自分の先祖の一部がちょうどモルジュにいただけに、スイスには特別にそれだけの関心を持っているのですが、神のみ業ともなれば、み摂理のお計らいに従わなければならないことも、同様に伝えてください。」(シャミナード師の手紙、275 1824年3月25日ーカイエ師宛て) この望みは15年後に速くも実現されました。

1839年9月4日付で、シャミナード師はフランソワ・ヨゼフ・エンデルリン士に書簡を送っています：

「…2人の同僚、メイエール修士とダビド修士を伴い、直ちにフリブールに出掛けてください。フリブールでは、司教様を表敬訪問して私からの挨拶を伝えた後、主任司祭と話し合い、特にあなたの黙想に関して相談してください。…平和のうちに出掛けてください。あなたを派遣される尊い御母があなたたちが忠実であるならば、一同を必ず祝福なさるはずです。」(シャミナード師の手紙、1166)

福者シャミナード師にとって大切なこの祈祷文は、スイスにてマリアニスト修道者たちによってしばしば唱えられていました。“罪の汚れのない乙女マリアによって、父と子と聖霊が至るところで称えられますように。”

3. マリアニストにとってのフリブールの重要性

マリアニストの活動はフリブールを超えて広がっていきました。1842年にはすでに、数名の修道者がローザンヌに、次いでシオン、アルトドルフへと派遣されていました。それから Sonderbund (分離同盟戦争) の宗教騒動が起こり、その結果 1850年までに、アルトドルフとシオンのただ二つのマリアニスト学校が残るのみとなりました。

1903年のコンブ法によって、修道会はフランスを去らねばなりませんでした。それで、マリア会員たちはフリブール近郊に戻ってきました。マリアニスト神学校もパリからフリブールへ移転しました。ヴィラ・サン・ジャン校とグラングヌーウの農業学校が設立されました。1903年以降、マリア会司祭の殆どがレジナ・ムンディ神学校で養成されてきました。数回の総会がこの同じ建物で開かれました。多くの神学生たちがブルギヨンの聖母聖堂へ巡礼し続



フリブール：空から見たレジナ・ムンディ神学校のはがき絵
(現在フリブール大学の教育学部)



けました。そこにはシャミナード師に取り次ぎを祈る“ex voto”さえ残っています。1946年にスイス管区が設立され、1960年代には100名を超える修道者を数えていました。

4. スイスにおけるマリアニスト家族

フランス管区の修道者たちによってフリブールでいくつかの信徒のグループが形成され、準会員のグループも設立された後、1990年代初頭に、マルティーニ地区の何人かの信徒たちはマリアニストの霊性について学びたいとの希望を表明しました。彼らはこの事について何人かの修道者、更に友人や知人たちと話をしました。何人かの人たちが興味を持つようになりました。こうして、神のみ言葉とマリア会の霊性を深め共有する最初の幾つかのグループが創設されました。いくつかのMLCが誕生して、スイスのフランス語圏の信徒マリアニストに新たな励ましを与えました。マルティーニのマリアニスト共同体が閉鎖された後、1997年にスイスの信徒評議員会が設立されました。

マリア会に入会し、堅忍している最後のスイス人は1984年に初誓願を宣立しました。会員たちは年老いていました。多くの会員が帰天しました。現在、17名のスイス人修道者しかいません。私たちの国では、まだ教鞭をとっている会員は一人もいません。マリアニストの学校は、現在、国によって運営されています。

これまで以上に、マリアニストの将来は神の手に委ねられています。私たちは、私たちの霊的家族のカリスマに生きる信徒により多くの役割を与えようと心がける運動に、多くを期待しています。これは私たちが世界マリアニスト祈りの日にあたって願う恵みです。

5. ブルギヨンの聖母マリア聖堂

ブルギヨンの聖母マリア聖堂はフリブールの町を見下ろす位置にあります。ここはフルブールの人たちとスイスのカトリック信者にとって親しみある巡礼地となっています。この平和で霊的刷新の地は、信者たちにとって長い間聖母マリアの傍にあって支えられ、勇気づけられ、そして癒される場所となっていました。

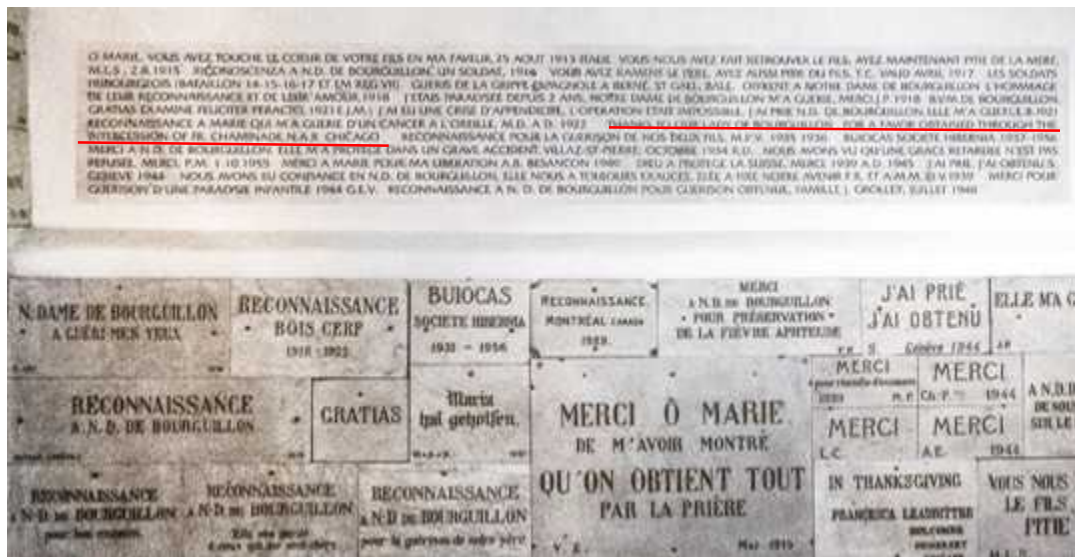
1157年にフリブールの町が建設された後、町の人たちは重い皮膚病患者を収容するために丘の上に庇護施設を建てました。1438年に、思い皮膚病患者であったオーストリーのフリードリヒ4世の治癒を願って、当局による巡礼団が編成され、彼は癒やされました。その時以来、病棟の小聖堂にある聖母マリア像は巡礼者を引き寄せてきました。聖母像は間もなく、重い皮膚病患者棟の外に1466年に建てられた現在の小聖堂に移されました。すでに1476年に、モラ(ドイツ語:ムルテン)の戦場で戦ったフルブールの兵士たちはブルギヨンに来て戦死した仲間たちのために祈りを捧げていました。聖堂を飾る数多くの“ex voto”(その中にはギョ



ブルギヨンの聖母小聖堂



ーム・ヨゼフ・シャミナード師に言及しているものもあります)が証しているように、巡礼者の流れは決して途絶えることなく現在にまで至っています。



シャミナード師への言及がある“ex voto”
上の6行目(最後の方)及び7行目(始めの方)

1996年に、“Association des brancardiers”(病人が乗せられている担架を運ぶ人たちの協会)はその設立目的である巡礼者への奉仕を踏まえて、ブルギヨンに巡礼者受け入れ施設(センター)を設立しました。このセンターは巡礼者の情報交換や交流の便利な出会いの場所となっています。

この聖堂は毎年4つの大きな巡礼団を迎えます。

- ◇ 1月1日:神の母、聖マリアの祝日、司教が10時15分のミサを司式します。
- ◇ 聖金曜日:フリブール市の十字架の道行はブルギヨンで終わります。
- ◇ 6月の第三日曜日:1932年以来、聖母の助けを求めて集まってくる病人と身体障害者の巡礼団は、約700名ぐらいにも上ります。
- ◇ 11月第三日曜日:軍関係者の巡礼団が集まり、世界平和のために祈ります。

ブルギヨンには独自の司牧チームがありますが、このチームは次のメンバーで構成されています:ベトレヘム宣教会院長:Ludovic Nobel 師、インゲンボールの2名の修道女:香部屋係の Hildegund 修道女と Chiara Francesca 修道女、そして一組の夫婦:Marlene and Nicola Carron です。聖堂はフリブールのノートルダム小教区の司牧責任下にあります。



ブルギヨンの聖母小聖堂内部

6. 祈りの意向

この 2015 年世界マリアニスト祈りの日にあたり、主よ、あなたは私たち霊的家族のすべてのメンバー、友人、知人を霊的に集めてくださいます。あなたは、私たちがあなたの言葉で養われ、あなたの僕、アデル、ギョーム・ヨゼフ、そして彼らの弟子たちが遺産として私たちに残したカリスマにさらに深く生きるよう、招いてくださいます。

私たちは教皇フランシスコ、私たちの司教、司祭、修道者、そして、あなたが私たちの個人的な霊的歩みに沿って送ってくださったすべての司牧者に感謝いたします。私たちと共に彼らが絶えずあなたをほめたたえるよう、彼らをあなたに委ねます。

答：「罪の汚れのない、おとめマリアによって、父と子と聖霊が至ところでたたえられますように。」

主よ、あなたは人々の福祉を心がける兄弟姉妹、最も見捨てられた人々に奉仕する人々を任命されました。彼らの活動があなたをほめたたえ続けますように。

答：「罪の汚れのない、おとめマリアによって、父と子と聖霊が至ところでたたえられますように。」

この世界マリアニスト祈りの日にあたり、主よ、あなたの霊を私たちにお与えください。あなたにお願いいたします。あなたのブドウ園に新しい働き人を送ってください。一致の恵みを与えてください。そして私たちが日常生活にあつてあなたの慈愛の証人となれますように力を与えてください。

答：「罪の汚れのない、おとめマリアによって、父と子と聖霊が至ところでたたえられますように。」

この祈りの日にあたり、私たちに先立って父の家に召されたすべての人々と心をつなげて祈ります。主よ、彼らをあなたの慈悲に委ねます。彼らと共に、私たちがいつもあなたをほめたたえますよう。

答：「罪の汚れのない、おとめマリアによって、父と子と聖霊が至ところでたたえられますように。」

この世界マリアニスト祈りの日にあつて、あなたは無原罪のおとめマリアを通して全ての場所であなたをほめたたえるよう招かれます。私たちはこの呼びかけの故にあなたを賛美し、この召命に忠実に留まる恵みをお願いいたします。私たちの主、キリストによって、アーメン。



*“一日の毎時、夜中に目を覚ましたときには、「父と子と聖霊とに栄えあらんことを…」を唱える。”

“ ”

129 1819 11 18

上記はスイス地域共同体の他のマリア会員の協力を得て、ジェヌヴィエー・ド・シモーヌ(MLC)、ローランド・カルプト(MLC)、及びジャン・ポール・フェーデルネーダー(SM)が書いた文書です。



シオンのマリア会修道院